

- 1 派遣期日 平成 23 年 10 月 21 日（金）
- 2 研修先 学校名 東京都練馬区立開進第一中学校
所在地 東京都練馬区早宮 1-16-50
- 3 研修内容

平成 22・23 年度 練馬区教育委員会 教育課題研究指定校
学力向上を目指した学び合いのある授業の工夫
ー読書指導を基盤とした全教科の取組ー

（１）開進第一中学校の研究概要

① 研究主題

学力向上を目指した学び合いのある授業の工夫
ー読書指導を基盤とした全教科の取組ー

② 研究主題設定の理由

平成 16 年以降継続して取り組んできた言語活動を充実させるために、その核となる活動として「読書指導」に全校で取り組み、これを基盤として各教科で「学び合いのある授業の工夫」を学力向上のための授業改善の視点として位置付け本研究主題を設定した。

③ 研究仮説

生徒の学習に対する現状を多面的に把握し、その分析結果をもとに日々の授業の中で言語活動の充実を図ることによって、生徒一人一人の学力をより向上させることができると考えた。

具体的な授業改善の視点として、全教科で生徒の意見発表や意見交流の場面をできるだけ多く設定することとした。また、学習に対する現状を把握するため学力調査と授業評価を実施した。

④ 研究の方法

ア 研究授業

- ・全教員年間 1 回以上の研究授業を行う。
- ・講師を招いた研究授業を年間 3 回設定し実施する。

イ 授業評価

- ・「いい授業をつくるために」というアンケート調査を 5 月から 6 月にマークシート方式で実施し、集計し課題を分析する。
- ・評価結果の経年変化から授業改善へ向けての課題を把握し 9 月以降の授業に生かす。

ウ 読書指導

- ・朝読書…読書カードで記録し、生徒の意欲を喚起する。また、学級文庫を設置整備する。
- ・道徳授業地区公開講座…課題図書教材として道徳授業を実施する。
- ・読書調査…図書委員会で実施し、読書傾向の集計・分析を実施する。
- ・課題図書…年間 6 冊実施。課題図書の本は学年別に国語科が選定する。
- ・ブックトーク…12 月に第 1 学年を対象として平和台図書館と連携して実施する。
- ・読書感想文コンクール…読書意欲を高めるため、コンクール形式で実施する。
- ・国語科における授業の取り組み…年間指導計画に「読書単元」を設定し授業を実施する。

エ 学力調査

学力調査の結果を各教科における分析及び三者面談の資料として活用する。

（２）公開授業参観

公開授業は全教科 1 学級ずつの公開であった。理科の研究協議（分科会）に参加するた

め、第1学年4組理科の授業を参観した。

○第1学年4組 授業者 夜久嘉子

○单元名 2 身のまわりの物質 第2章 水溶液の性質

○单元の目標

新学習指導要領 1分野(2)身のまわりの物質 イ水溶液(ア)

物質が水に溶けるようすの観察を行い、結果を分析して解釈し、水溶液では溶質が均一に分散していることを見出させ、粒子のモデルと関連付けて理解させる。

○授業改善のポイント

- ・自分なりの見通しや予想を持って実験に臨ませるために、自分の考えをまとめたり、発表したりする場面を設定する。
- ・班で協力して実験を行い、意見を交換し合いながら溶解について理解を深める。

○本時の授業

- ・本時のねらい

正しくろ過の操作を行うことができる。

結果を基に考察を行い、自分の言葉で表現する事ができる。

- ・前時の学習でろ過の方法については学習済みなので、導入ではその方法の確認から始まった。コーヒースシュガーを溶かした溶液に泥水を混ぜ、茶こし、ガーゼ、ろ紙の順でろ過を行い、ろ液が何色になるか予想をして、班ごとにまとめ、発表することで見通しをもって、実験を行っていた。実験では茶こし、ガーゼ、ろ紙の目の細かさに注目させ、それぞれに残ったものと通過したものとに分け、それを水に「溶けているもの」「溶けていないもの」に分けていた。班でのまとめは実験結果をもとに、目の細かさに注目して、ガーゼ、ろ紙に残ったものの違いについてまとめて発表した。各班毎に予想を発表し、確認する時間が多くとられていた。また、実験の時間を十分確保したために、最後のまとめは一部の班の発表となってしまう、指導案で書かれている学習発表の一般化までは行われなかった。

(3) 研究協議

研究協議は、授業者の反省と参観者からの質疑が行われた。授業者の反省としては、「同じ授業を他のクラスで4回行ったが、どのクラスも指導案通りに終わることはできなかった。学習内容を多く取り入れすぎてしまった。」という内容の反省が行われた。

質疑応答では自分から次のような質問を行い、ご意見を頂いた。

Q 予想を全班発表することは必要であったか。見通しをもてる程度はいかがか。

A 授業の流れを考えると見通しをもてる程度でもよかったかも知れない。今後、参考にしたい。

Q 研究紀要では問題演習の時間を多くとることで、基礎学力が定着したと書いてあるが、学び合いによって学力は向上することができたのか。

A 毎回、問題演習を行っているわけではないが、基礎学力定着のために行っている。学び合いによって学力が向上したかは検証方法が難しい。ただ、生徒の学習に取り組む姿勢や表現力などは向上したと考えている。

4 感想

本校の学校課題研究のテーマは「わかる喜びを実感できる学習指導のあり方 ―伝え合う力を高める交流活動の工夫を通して―」で研修をすすめている。練馬区立開進第一中学校は言語活動を充実した学び合いのある授業を研究しているので、本校の学校課題研究の参考にすることを目的に参観した。研究体制、研究の方法等参考になることが多く、今後、本校の課題研究を進めるにあたって考え方を取り入れていきたいと思う。交流学习と学力向上がどのように関連するか考えを深める必要がある。また、交流活動で身につけるべきもの、それによって学力をどのように向上させるかを考えていきたい。